



周産期のこころをケアするひとの育成研修 実施運営マニュアル

日本財団 愛育研究所



2025年4月1日



恩賜財団母子愛
育会
愛育研究所

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

目次

1. 研修目的
2. 対象
3. 研修カリキュラム
 - 1) 履修項目
 - 2) 修了者取得条件
4. 研修プログラム（日程）
5. 運営
 - 1) 研修前
 - 2) 実施時
 - 3) 研修後
 - 4) 主催にあたっての注意事項
6. 周産期のこころをケアする人の育成事業 2025 年事業概要

1. 研修目的

周産期は多くの女性・家族にとって喜ばしい時期である一方、様々なストレスを感じる時期である。この時期のストレスは母体に心理的不調をきたすだけでなく、育児や夫婦・家族関係にも様々な悪影響を与える。「周産期のこころをケアする人の育成事業研修」では多くの不安や心配を抱える女性や家族に寄り添うために、周産期メンタルヘルスの正常～病理を基礎から正しく学び、臨床で活かせる心理支援のスキルを習得し、周産期メンタルヘルスに精通した専門家を育成することを目的とする。

本研修は恩賜財団母子愛育会が日本財団の助成を受けて実施する事業で、1年目の研修を修了した方は、2年目以降その知識・経験を活かしスタッフとして、周産期のメンタルヘルス実態とその対応方法について周知、啓蒙を行うため、運営ご参加をお願いする。

また、研修修了者は、周産期メンタルヘルスの実践とともに、専門家育成、一般人への知識啓蒙・普及活動等を行うことで、誰もが安心して子どもを産み育てやすい環境をつくる一役を担う。研修修了者は多職種連携を行い、周産期自殺や虐待死がなくなる世の中を目指す。

2. 対象

- 1) 周産期領域・メンタルヘルスに興味がある方
- 2) 有資格者（医師、保健師、助産師、看護師、心理士、MSW等）、
全5回出席可能な方

3. 研修カリキュラム

- 1) 初級編、中級編では、【評価技法】、【心理支援技法】、【多職種連携技法】について、動画教材を使用し事前学習を行う。
を行う。ここでは、実際の臨床場面で活かせるスキル習得を目指す。

2) 履修項目

【動画教材】周産期メンタルヘルスプロフェッショナル研修
北村メンタルヘルス学術振興財団
<https://www.kitamura-foundation.org/training2.html>

* 内容詳細は次ページに掲載

【初級編】

2) 【心理支援技法】の習得を中心に、演習やグループワークを交えた5回の対面研修

(1) 評価技法コース：周産期に起こりうる疾患・問題の評価法を学びます。

内容	時間
1巻 周産期におけるメンタルヘルス評価の重要性	
2巻 周産期精神疾患の疫学	
3巻 周産期の気分障害	
4巻 周産期の不安を中心とした障害	各巻 12-15分
5巻 周産期の精神病性障害	
6巻 児童虐待と配偶者暴力	
7巻 周産期ボンディングとその障害	
8巻 周産期の悲哀	

(2) 援助技法コース：具体的な援助技法を基礎から学びます。

内容	時間
1巻 援助技法の基礎：面接の準備	
2巻 援助技法の基礎：面接の基本	
3巻 援助技法の基礎：基本的共感と葛藤の共感	
4巻 援助技法の基礎：プローブと面接の深化	各巻 12-15分
5巻 援助技法の事例	
6巻 援助技法の事例	
7巻 援助技法の事例	
8巻 回復のメカニズム	

(3) 多職種連携技法コース：多職種連携の重要性と実際に起こりうる問題を学びます

内容	時間
1巻 精神科医療における多職種	
2巻 他科との連携	
3巻 周産期メンタルヘルスと子育てサービス前編	
4巻 周産期メンタルヘルスと子育てサービス後編	各巻 12-15分
5巻 メンタルヘルスと法律	
6巻 周産期メンタルヘルスと精神保健福祉法	
7巻 児童福祉法と児童虐待福祉法	
8巻 医療における生命倫理	

【中級編】

(1) 評価技法コース

内容	時間
1巻 心理症状の捉え方（1）	各巻 12-15分
2巻 心理症状の捉え方（2）	
3巻 心理メカニズムの理解（1）ストレスと対処行動	
4巻 心理メカニズムの理解（2）ソーシャルサポート	
5巻 心理メカニズムの理解（3）認知パターン	
6巻 心理メカニズムの理解（4）成人のアタッチメント と夫婦適応	
7巻 ボンディング障害の構造と評価技法	
8巻 児童虐待と配偶者間暴力の評価	

(2) 援助技法コース

内容	時間
1巻 面接の開始	各巻 12-15分
2巻 援助技法の事例（1）	
3巻 援助技法の事例（2）	
4巻 援助技法の事例（3）	
5巻 質問から基本的共感へ	
6巻 面接全体の枠組み	
7巻 クライエントの尊重とさまざまな問題	
8巻 周産期メンタルヘルスの生物学的療法	

(3) 多職種連携技法コース

内容	時間
1巻 急性精神病性障害事例の連携	各巻 12-15分
2巻 診療所・病院・行政・助産院・保育園の連携（1）	
3巻 診療所・病院・行政・助産院・保育園の連携（2）	
4巻 精神科受診の勧め方（1）調査票の功罪	
5巻 精神科受診の勧め方（2）正しいEPDSの使い方	
6巻 養子縁組斡旋団体への相談 実践編	
7巻 医療における生命倫理（1）	
8巻 医療における生命倫理（2）	

3) 修了証取得条件

- ・周産期に関わる業務に携わっている専門職で、本研修後に継続事業に参加できる事。
- ・対面研修前に動画教材を用いた事前学習を全て受講している事。
動画教材『周産期メンタルヘルスプロフェッショナル研修』
(北村メンタルヘルス学術振興財団：初級編24巻、中級編24巻)
- ・対面研修5回（講義、演習、グループワーク）に80%以上に出席した者。

4. 研修プログラム（日程）

日程	研修内容	講師 ファシリテーター
7月～8月	動画教材『周産期メンタルヘルスプロフェショナル研修 ^{注1} 』を個別配信します。 各自ご自宅で学習し、研修に備えて下さい ・初級編24本（約15分/本） ・中級編24本（約15分/本）	動画研修の詳細は 注1をご覧下さい
9月1日(日) 第1回研修会 10:00～16:00	導入、心理支援（基本スキル）の習得 AM：導入、基本スキルの演習1 ウェルカムセッション PM：基本スキルの演習2とグループワーク	大橋優紀子 石川紀子他
10月13日(日) 第2回研修会 10:00～16:00	応用スキルの習得と各論 AM：周産期メンタルヘルス各論 PM：応用スキルの演習	大橋優紀子 齋藤知見 他
11月10日(日) 第3回研修会 9:30～16:45	応用スキルの習得 AM：講義 PM：演習とグループワーク	北村俊則 宮崎倫美 他
12月1日(日) 第4回研修会 9:30～16:45	心理支援の実際 AM：症例経過提示 PM：演習とグループワーク	北村俊則 齋藤知見 他
1月12日(日) 第5回研修会 10:00～16:00	まとめのグループワークと発表	大橋優紀子 野馬利恵子 他

【講師・ファシリテーター紹介】

- 北村俊則 こころの診療科きたむら醫院院長、北村メンタルヘルス学術振興財団理事
北村メンタルヘルス研究所所長
- 大橋優紀子 城西国際大学看護学部教授
- 石川紀子 愛育病院看護部長
- 齋藤知見 愛育クリニック周産期メンタルヘルス科副部長、愛育研究所研究企画部次長
- 野馬利恵子 愛育病院教育担当師長、愛育研究所研究員
- 宮崎倫美 愛育研究所研究員

5. 運営

1) 研修前

- ① 講師に連絡を取り、研修日程を調整する。当日の資料や必要物品を確認する。
- ② 日程決定次第、会場を予約する。
- ③ 研修案内を作成し、参加者を募集する。参加者が決定したら名簿を作成する。
- ④ 参加予定者に事前学習の案内をメールで連絡する。
- ⑤ 名札、領収書、講師用の水、第1回ウェルカムセッション用のリフレッシュメント（飲料、菓子、紙コップ等）を手配、準備する。
- ⑥ 講師より送付されるテキストや資料を受け取り、当日まで保管する。
- ⑦ 研修日2週間前に、講師に最終確認メールを送る。
- ⑧ 研修日1週間前に、参加予定者にリマインドメールを送る。

2) 実施時

- ① 受付開始時間までに会場準備をする。
 - ・講師控室の確認、椅子と机、空調と照明の調整。
 - ・研修資料、テキスト、名札、参加者名簿、PC、プロジェクター、マイク、AVシステム作動確認。
 - ・リフレッシュメントコーナーの設置（第1回のみ）。
- ② 受付開始、参加費徴収と領収書発行、座席（指定または自由）の案内をする
- ③ 緊急連絡への対応。
- ④ グループワークや演習は参加者の自主性を尊重する。
- ⑤ ファシリテーターとして全体に目を配り、グループワークや演習が進まない時には声をかけ支援する
- ⑥ 研修終了時、アンケートへの回答を依頼する。
- ⑦ 研修最終日、研修終了証を渡す。
- ⑧ 研修終了後、会場の片付けと清掃を行う。
- ⑨ 研修後アンケートを集計し、次回に反映させる。

3) 研修後

- ① 講師にお礼のメールを送る。
- ② アンケート調査をまとめ、講師にメールを送る。

③ 研修全体を振り返り、次の機会に反映させる。

4) 注意事項

- ① 台風、豪雨、自然災害時の当日の連絡方法をインフォメーションする。
- ② 講師の急な変更時にも対応ができるよう、資料等事前に受け取り、講師と十分な打ち合わせを行っておく。
- ③ AVシステムなどのトラブル回避のため前日に1回、当日朝に1回、作動確認を行う。またインターネット接続状況等も事前にテストを行う。
- ④ 必要物品はチェックリストなどとして、事前、当日チェックする。
- ⑤ 研修生の健康状態に留意する。
- ⑥ 研修生が、食事、休憩等が十分に取れているか確認、配慮する。
- ⑦ 当日の進行、休憩時間の調整を行い、時間内に終了するようにする。

6. 周産期のこころをケアする人の育成事業 2025年事業概要

開発期のこころをケアする人の 育成事業 2025年事業概要

1	前言
2	章節內容
2-1	1. 亂世亂世亂世
2-2	2. 亂世亂世亂世
2-3	3. 亂世亂世亂世
3	參考書籍

目 的

1. 目的
<p>用語解説</p> <p>用語解説欄は、アートコンサルティングアドバイザリーグループが運営するアートコンサルティングアドバイザリーグループに登録したアーティストの専門用語を解説。日本中の専門用語がわかる用語解説欄</p>
<p>一般入力</p> <p>用語解説欄の専門用語を登録するアーティストに登録した一般入力の登録用欄を行います。専門用語登録用欄は、専門用語登録用欄</p>

事業内容

